

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)

【公開番号】特開 2006-109086 (P2006-109086A)  
 【公開日】平成 18 年 4 月 20 日 (2006.4.20)  
 【年通号数】公開・登録公報 2006-016  
 【出願番号】特願 2004-292865 (P2004-292865)  
 【国際特許分類】

**H 0 4 M 11/00 (2006.01)**

**H 0 4 L 12/66 (2006.01)**

【F I】

H 0 4 M 11/00 3 0 2

H 0 4 L 12/66 D

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 9 月 5 日 (2007.9.5)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

I P 端末装置の保有する通信機能の種類及びその接続先情報からなる N A P T R リソースレコードを格納し I P 端末装置からの問合せに応じて前記 N A P T R リソースレコードを返送する E N U M サーバと I P ネットワークを介して接続される少なくとも一つの通信機能を有する I P 端末装置であって、

発呼に際して、発呼先 I P 端末装置に対応する N A P T R リソースレコードを前記 E N U M サーバに問い合わせる前記 N A P T R リソースレコードを取得する取得手段と、

前記取得手段により取得した N A P T R リソースレコードに含まれる前記発呼先 I P 端末装置の通信機能と自装置の通信機能とを比較し、自装置の通信機能に対応する通信機能が前記発呼先 I P 端末装置に設定されているか否かを判別する判別手段と、

前記判別手段により前記発呼先 I P 端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した 1 つ又は複数の通信機能を表示する表示手段と、

前記表示手段に表示した通信機能のいずれかが操作者により選択されると、前記選択された通信機能を用いて前記発呼先 I P 端末装置との間の通信を制御する通信制御手段と、を具備することを特徴とする I P 端末装置。

【請求項 2】

前記判別手段は、前記発呼先 I P 端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した 1 つ又は複数の通信機能毎に有効であることを示す有効情報を記憶手段に記憶し、

前記表示手段は、前記記憶手段に記憶された有効情報に基づいて、1 つ又は複数の通信機能を表示することを特徴とする請求項 1 記載の I P 端末装置。

【請求項 3】

前記通信制御手段は、前記表示手段に表示した同一の発呼先 I P 端末装置が保有する複数の通信機能から第 1 の通信機能が選択されると、前記発呼先 I P 端末装置との間で前記第 1 の通信機能による通信を制御し、続いて、前記複数の通信機能から第 2 の通信機能が選択されると、前記発呼先 I P 端末装置との間で前記第 2 の通信機能による通信を制御することを特徴とする請求項 1 記載の I P 端末装置。

【請求項 4】

前記判別手段は、前記通信機能毎の有効情報を前記取得手段により取得した前記発呼先 I P 端末装置の N A P T R リソースレコード と対応付けて前記記憶手段に保存することを特徴とする請求項 2 記載の I P 端末装置。

【請求項 5】

I P 端末装置の保有する通信機能の種類及びその接続先情報からなる N A P T R リソースレコードを格納し I P 端末装置からの問合せに応じて前記 N A P T R リソースレコードを返送する E N U M サーバと I P ネットワークを介して接続される少なくとも一つの通信機能を有する I P 端末装置の通信機能表示方法であって、

発呼に際して、発呼先 I P 端末装置に対応する N A P T R リソースレコードを前記 E N U M サーバに問い合わせる前記 N A P T R リソースレコードを取得し、

前記取得した N A P T R リソースレコードに含まれる前記発呼先 I P 端末装置の通信機能と自装置の通信機能とを比較して自装置の通信機能に対応する通信機能が前記発呼先 I P 端末装置に設定されているか否かを判別し、

前記発呼先 I P 端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した 1 つ又は複数の通信機能を表示部に表示することを特徴とする通信機能表示方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】I P 端末装置および通信機能表示方法

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、I P 端末装置に関し、特に、E N U M サーバを利用する I P 端末装置および I P 端末装置の通信機能表示方法に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

本発明は、I P 端末装置の保有する通信機能の種類及びその接続先情報からなる N A P T R リソースレコードを格納し I P 端末装置からの問合せに応じて前記 N A P T R リソースレコードを返送する E N U M サーバと I P ネットワークを介して接続される少なくとも一つの通信機能を有する I P 端末装置であって、発呼に際して、発呼先 I P 端末装置に対応する N A P T R リソースレコードを前記 E N U M サーバに問い合わせる前記 N A P T R リソースレコードを取得する取得手段と、前記取得手段により取得した N A P T R リソースレコードに含まれる前記発呼先 I P 端末装置の通信機能と自装置の通信機能とを比較し、自装置の通信機能に対応する通信機能が前記発呼先 I P 端末装置に設定されているか否かを判別する判別手段と、前記判別手段により前記発呼先 I P 端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した 1 つ又は複数の通信機能を表示する表示手段と、前記表示手段に表示した通信機能のいずれかが操作者により選択されると、前記選択された通信機能を用いて前記発呼先 I P 端末装置との間の通信を制御する通信制御手段と、を具備する構成を採る。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

本発明の第 1 の態様に係る I P 端末装置は、I P 端末装置の保有する通信機能の種類及びその接続先情報からなる N A P T R リソースレコードを格納し I P 端末装置からの問合せに応じて前記 N A P T R リソースレコードを返送する E N U M サーバと I P ネットワークを介して接続される少なくとも一つの通信機能を有する I P 端末装置であって、発呼に際して、発呼先 I P 端末装置に対応する N A P T R リソースレコードを前記 E N U M サーバに問い合わせ前記 N A P T R リソースレコードを取得する取得手段と、前記取得手段により取得した N A P T R リソースレコードに含まれる前記発呼先 I P 端末装置の通信機能と自装置の通信機能とを比較し、自装置の通信機能に対応する通信機能が前記発呼先 I P 端末装置に設定されているか否かを判別する判別手段と、前記判別手段により前記発呼先 I P 端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した 1 つ又は複数の通信機能を表示する表示手段と、前記表示手段に表示した通信機能のいずれかが操作者により選択されると、前記選択された通信機能を用いて前記発呼先 I P 端末装置との間の通信を制御する通信制御手段と、を具備する構成を採る。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

本発明の第 2 の態様は、第 1 の態様に係る I P 端末装置において、前記判別手段は、前記発呼先 I P 端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した 1 つ又は複数の通信機能毎に有効であることを示す有効情報を記憶手段に記憶し、前記表示手段は、前記記憶手段に記憶された有効情報に基づいて、1 つ又は複数の通信機能を表示する構成を採る。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

本発明の第 3 の態様は、第 1 の態様に係る I P 端末装置において、前記通信制御手段は、前記表示手段に表示した同一の発呼先 I P 端末装置が保有する複数の通信機能から第 1 の通信機能が選択されると、前記発呼先 I P 端末装置との間で前記第 1 の通信機能による通信を制御し、続いて、前記複数の通信機能から第 2 の通信機能が選択されると、前記発呼先 I P 端末装置との間で前記第 2 の通信機能による通信を制御する構成を採る。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

本発明の第 4 の態様は、第 2 の態様に係る I P 端末装置において、前記判別手段は、前記通信機能毎の有効情報を前記取得手段により取得した前記発呼先 I P 端末装置の N A P T R リソースレコード と対応付けて前記記憶手段に保存する構成を採る。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本発明の第5の態様に係る通信機能表示方法は、IP端末装置の保有する通信機能の種類及びその接続先情報からなるNAPTTRリソースレコードを格納しIP端末装置からの問合せに応じて前記NAPTTRリソースレコードを返送するENUMサーバとIPネットワークを介して接続される少なくとも一つの通信機能を有するIP端末装置の通信機能表示方法であって、発呼に際して、発呼先IP端末装置に対応するNAPTTRリソースレコードを前記ENUMサーバに問い合わせ前記NAPTTRリソースレコードを取得し、前記取得したNAPTTRリソースレコードに含まれる前記発呼先IP端末装置の通信機能と自装置の通信機能とを比較して自装置の通信機能に対応する通信機能が前記発呼先IP端末装置に設定されているか否かを判別し、前記発呼先IP端末装置と自装置との両方に設定されていると判別した1つ又は複数の通信機能を表示部に表示するものとする。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

この方法によれば、発呼元IP端末装置のユーザは、発呼先IP端末装置の通信機能を調べる手間を省略することができ、誤った通信機能を選択するといった事態を防止することができる。